

令和 8 年 3 月 25 日
社会福祉法人 親和会
理事長 山本 久喜
酒田地区GH所長 川口 多恵子

令和 7 年度酒田地区共同生活事業所地域連携推進会議

議事録

- * 日 時 令和 8 年 3 月 25 日 (水)
午後 10 時～11 時 30 分
- * 会 場 GH ひだまり リビング
- * 出席者 ご利用者様 3 名 福祉に知見を有する方 1 名 地域関係者 1 名
市町村担当の方 1 名 事業所職員 2 名
親和会理事長

[議題]

1. 開会 所長あいさつ

今年度より地域連携推進会議を年に一度、グループホームの見学会を年に 1 回行うことが国で定められましたので、今回このように会議を開かせていただきました。年度末のとても忙しい中、皆さん忙しい中お集まりいただき本当に感謝しております。ありがとうございます。来年度はもう少し早い時期で開催できればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 理事長あいさつ

この地域生活推進会議、今年度中に設置するように国の方針として指示が出まして、なんとか今年度中に会議を開催することが出来ました。皆さんにはいろいろとお忙しい中、参加していただき大変ありがたく思います。

酒田地区にグループホームが 3 か所、鶴岡に 4 か所あり、親和会として 7 か所であり全体で 62 人が入居しているという状況になっております。

法人の中で例えば虐待があったとか、いろんなことがあったら報告してほしいわけですが、そういうものは中だけではなく地域との関係が重要であり透明性を保つ上でこの地域連携推進会議が大変重要な役割を持つこととなります。そこも含めましてご協力よろしくお願ひしたいと思ひます。

3. 出席者自己紹介 *配布しました構成員出席者名簿は閉会后、回収させていただきます。

4. 議事

(1) 施設の基本理念 基本方針について

基本理念

「利用者の個人の尊厳を大切にし、障がい者が地域の中で自分らしく生きるための支援を行うとともに、地域に開かれ信頼される法人運営」とされている。

基本方針

- ①利用者の個性と自己決定の尊重・質の高いサービス提供
- ②健全・公正な事業運営と職員の資質向上

- ③偏見・差別のない社会実現に向けた地域・家族会・関係団体との協力の3点が掲げられた。

(2) 事業所の運営状況報告

【施設概要と入居状況】

3グループホームには朝夕必ず職員が訪問し、世話人の状況確認と利用者の体調確認を実施している。現在、酒田地区3か所に24名が入居しており、ほぼ全員が精神障がいを持つ方で、月1回程度精神科（こころの医療センター・東病院・山容病院等）に通院している。

【費用負担】

家賃：月額1万7千円～2万円（特別給付金1万円を差し引き、実質負担7千円～1万円）

食費：月額約2万6千円（平日・土曜・祝日の朝夕食を含む）

光熱費：共有部分5千円～1万円＋個室使用分を個別請求

日用品費：月額3千円～4千円（掃除用具・トイレトペーパー等）

食事単価：朝食400円、夕食600円、（通所日は作業所にて昼食250円）

【日常生活支援】

食事は朝7時半・夕方17時半に全員でGHリビングにて提供。日曜日のみ自炊（電子レンジ・トースター使用）。毎週金曜日は「工房おひさま」のパン食（無添加）を洋食メニューで提供し、好評を得ている。洗濯物を干す場所は居室と共有スペース。掃除は1週間交代制で共有部分を分担して行っている。入浴は順番制。外出は朝6時半以降・夕方18時半までを基本とし、遅延・外泊の場合は事前相談を義務付けている。夜間巡回は19時半～21時半（職員）主に眠前薬服薬確認、施錠の確認。また22時～5時（警備委託）では利用者の安全確認、施錠確認を行っている。

【医療・服薬管理】

服薬確認は朝・昼・夕・就寝前の最大4回実施（昼は通所先で確認）。通院同行はこころの医療センター等へ職員が対応し、訪問看護ステーションとも連携している。毎朝検温・血圧測定・食欲・睡眠状況を記録。年1回の健康診断を実施し、血圧・糖尿病・コレステロール値に要注意の利用者には内科受診を勧めている。

【金銭・個別支援】

金銭管理は社会福祉協議会と連携し通帳を管理。個別支援計画はサービス管理責任者が6か月ごとにアセスメントを実施して作成。苦情対応は各グループホームに意見箱を設置（鍵は管理者が管理）。虐待発生時は本部へ速やかに報告し、職員・世話人間で情報共有している。

【レクリエーション・避難訓練・地域交流】

外食レクを年4回実施（1人1,500円、超過分は自己負担）。今月はキッチンはったり、つたやを予定。クリスマスにはケーキを提供。避難訓練は年2回実施済みで、松原小学校への徒歩避難訓練も行った。各グループホームは町内会費を納付し、地域行事への参加や除雪協力など近隣との関係を維持している。

(3) グループホームと地域の連携の必要性について

グループホームに入居している利用者さんは将来的には自立に向けての訓練を行っています。自立した時に近隣の方との関わり合いや自治会行事への参加を経験したことで、自分が困っているときや災害があった時には、身近に助けてくれる状況を確保出来ることが大切なことを身につけていただきたい。

グループホームひだまり、ポプラは町内会が同じため、自治会から障害者施設であることの理解と協力を得ることが出来ている。またグループホームあゆみも近隣方や自治会より理解いただいています。

(4) ご利用者様から自分たちの生活について紹介

朝の起床・食事・身支度から作業所通所、帰宅後の入浴・夕食・就寝という規則正しい生活が定着している。新規入居者へ過ごし方やルールを教えるなどの経験が社会参加の練習になっている。

課題として建物の老朽化（車庫の階段の危険性や部屋の壁の薄さによる騒音）が挙げられた。

もう1名からは東日本大震災当時（15年前）のうつ状態を振り返り、グループホームでは食事・入浴・洗濯が保障されており、当時と比べると本当に助かっている。食費については1月から朝夕各100円値上げされたが、この値段でこの量は贅沢。

(5) 意見交換 質疑応答

利用者よりあゆみの移転について質問

現在のあゆみはさごし事業所の2階という構造が国の制度上問題となっており、来年度中に中古物件を購入・改築して移転する方向で検討中である。

利用者の高齢化（60代後半が増加）を踏まえ、1階居室の確保も検討している。

参加者より世話人体制について質問

世話人体制は酒田地区では5名がローテーションを組み、3グループホームの朝夕を担当。

世話人さんの高齢化による負担増が課題である。

参加者より合同レクリエーションの開催の提案

3事業所合同の買い物・食事レクを実施してほしいとの要望が出され、来年度に向けて実施を検討することを伝えた。

(6) 次回 開催日について

次回の地域連携推進会議は来年度早々（夏以降を目安）に開催を目指す。

5. 閉会

以上をもちまして、今年度の酒田地区地域連携推進会議を終わらせていただきます。

改善点・感想

ご家族の参加が叶わなかったことから開催日を検討したい。

事前に議事録をお渡し出来なかったため、あまり質問を頂くことが出来なかった。

こういう機会によって利用者さんと地域の方々の関わりが持てた点がよかった。